

「三位一体の構造改革」—— 市民とともに描く、これからの北見のカタチ

2026年6月 第二回定例会 会派 新・北見 西野ひろあき 代表質問より



北見の未来に対する希望を形にするための、3つのアプローチ

現在の北見市の現在地： 集中健全化期間

何が削られるのか？

どの負担が増えるのか？

財政健全化は次世代への責任を果たすために避けて通れない道。

しかし、歳出削減や施設再編の話ばかりでは、市民の不安が先行してしまいます。

未来への希望なき改革 は成功しない

過去の課題に向き合うことと同時に、未来への希望を描かなければ、北見が選ばれ続けることは叶わない。

財政健全化を、単なる「縮小」や「我慢」の計画で終わらせてはいけません。

両輪で進める構造改革

過去への対応



アクション
プラン



財政の
健全化



公共施設の
再編・見直し

これまで積み上がってきた課題に対する
責任ある対応。

未来への対応



長期ビジョン
の策定



新たな価値
の創造



成長戦略
の実行

北見が何で選ばれ、どのような未来をつくるのか
という前向きな戦略。

この2つを同時に進めることで初めて、市民は未来に希望を持つことができます。

北見の未来をつくる「三位一体の仕組み」

① 長期ビジョン

北見がどこへ向かうのか、目指すまちの明確なコンセプトを示す。

② デジタル広聴・熟議

多様な市民の声を聞き、AI等で整理し、共に納得を重ねる仕組み。

③ 官民連携体制

行政だけでなく、民間・大学・市民とともに実行へ移す「シンク&ドゥ・タンク」。

これらは別々の施策ではなく、北見が次の時代へ進むための「一つのエンジン」です。

総合計画 (幅広い分野を網羅)

福祉

教育

防災

都市
基盤

行財政

市政全体を進めるために必須だが、
他地域との「差別化」は見えにくい。

長期ビジョン

(選ばれるためのコンセプト)

何で価値を生み出し、
何で価値を生み出し、どう人や投資を呼び込むのか？
「戦える戦略の軸」。

十勝の事例:「フードバレーとかち」

農業と食を軸に地域全体が同じ方向へ。

福岡市の事例:「東アジアのビジネスハブ」

アジアの玄関口としての都市像が投資を牽引。

北見には、世界に価値を示す「素材」がすでにある



農業・食

日本有数の豊かな
一次産業基盤。



焼肉文化

地域に根付く独自の
食文化とブランド。



オホーツクの自然

圧倒的なロケーションと環境。



4つの自治区

合併により集まった、多様な
歴史・文化・産業のモザイク。



北見工業大学

IT・DXを牽引する
高度な人材と知見。

これらは単に「守るべき資源」ではなく、AIやITと掛け合わせることで、立地や物流の不利を乗り越え、グローバルに「戦うための武器」になります。

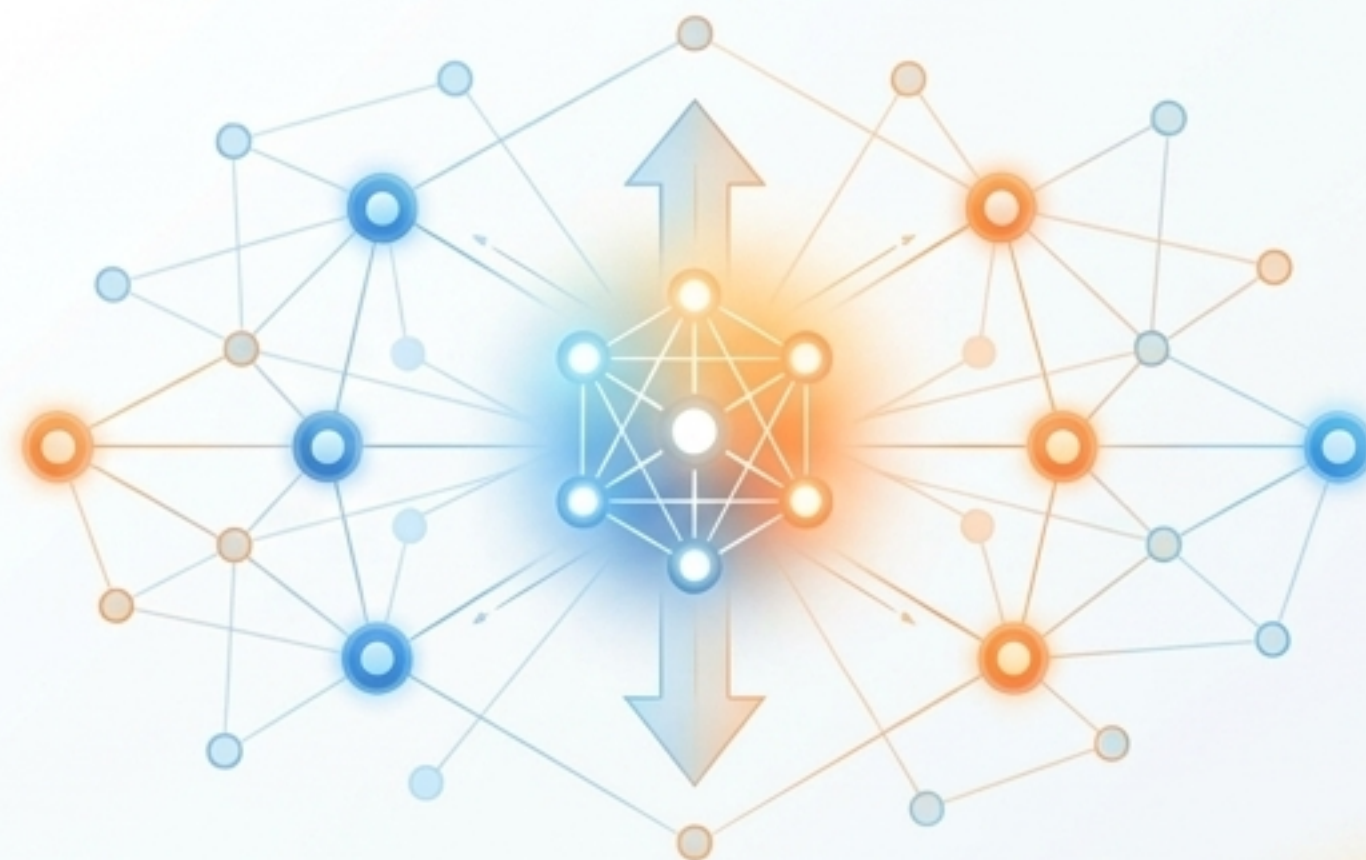
対立から合意へ：市民対話をアップデートする

従来の広聴



賛成か反対かを問う単発の意見収集。声の大きい意見が目立ち、参加できない人の声や「静かな不安」がこぼれ落ちてしまう。

これからの熟議



台湾のデジタル民主主義のように、多層的な意見を可視化。対立を煽るのではなく「合意できる点（共通の土台）」を見つけ出す技術。

全ての声を入りに



市長への手紙



市ミントボックス



パブリックコメント



移動市長室

AIとDXによる論点整理

膨大な意見から
「市民の不安」
「優先順位」「代替案」を
公平に整理・分析。

透明な政策判断



整理された論点を市民に共有し、
行政がなぜその決断をしたのかを
分かりやすくフィードバック。
納得性の高い合意形成へ。

紙も対面もデジタルも、
すべての声を大切にする。

構想から実行までを共に担う「シンク&ドゥ・タンク」

従来のピラミッド型



行政がすべてを抱え込む、または外部コンサルに丸投げする。
→ 実行のノウハウが地域に残らない。

新しいエコシステム型



福岡地域戦略推進協議会 (FDC) のような産学官民一体の体制。
枠組みを解放し、それぞれの強みを持ち寄って共に実行する。

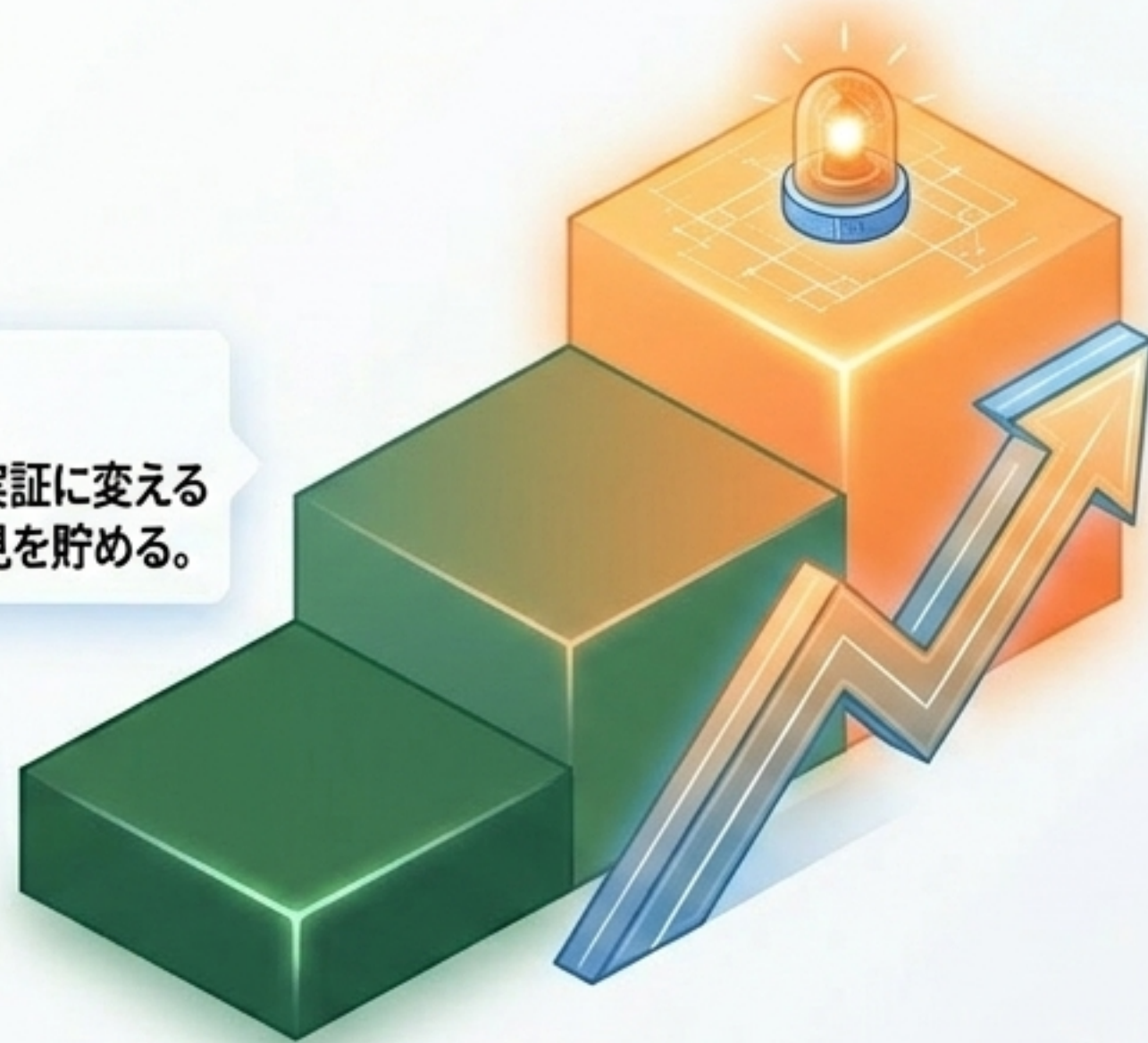
北見の未来を、自分たちの手でつくる力を育てる

ノウハウの蓄積

誰が思いをつなぎ、誰がアイデアを実証に変えるのか。手を動かしながら地域内に知見を貯める。

小さく始める

個別の政策領域や実証実験から、官民が連携するプロジェクトを立ち上げる。



自走するまちづくり

まちづくりのコミュニティ形成力そのものが、北見の「最大の資産」となる。

**「行政がすべてを抱える必要はありません。
限られた人材だからこそ、共に構想し、共に汗を流す体制が必要です。」**

希望を動かす、北見の新しいエンジン

ビジョンが的を絞る

[長期ビジョン]が北見の戦うべき方向性(コンセプト)を明確にする。

熟議が力を合わせる

[デジタル広聴・熟議]が多様な声を整理し、市民全体の納得と合意をつくる。

このサイクルが
回り続けることで、
北見は自ら未来を
切り開く力を持ちます。

体制が形にする

[官民連携体制]がノウハウを結集し、具体的なプロジェクトとして実行する。

北見の未来に対する希望を、ともに形に。

- ◆ 希望は、誰かが一方的に与えてくれるものではありません。
- ◆ 過去の課題から目を背けず、同時に未来の可能性を信じること。
- ◆ 行政、議会、経済界、大学、そして市民一人ひとりが、それぞれの力を持ち寄ること。

これから育っていく子どもたちから、「選ばれる街」になるために。

北見の新しい設計図を、ここから一緒に描いていきましょう。



2026年6月 第二回定例会
会派 新・北見 西野ひろあき
質問趣意(市民向け要約版)